



EV車検の準備に励む学生 袋井市のエコバススタジアムで

レーシングカー

学生が性能競う

小笠山総合運動公園で大会開幕

大学生や専門学校生らが、公道内の駐車場からエコーバススタジアムの一階駐車場で会場を移動。二十チームほどが設計要件の適合性やブレーキの利き具合などをチェックする車検を受けた。残り約七十チームの車

検、設計、製作したレーシングカーの性能や開発までの工程を競う「第十六回全日本学生フォーミュラ大会」(公益社団法人自動車技術会主催)が四日、袋井と掛川両市にまたがる小笠山総合運動公園で開幕した。八日まで。

ガソリンエンジン車(ICEV)と電気自動車(EV)の二クラスがあり、今年には中国やインドネシア、タイなど海外チームを含む約九十チームがエントリー。県内からは静岡理工科大、静岡大、静岡工科自動車大学の三校四チームが参加する。

初日は台風21号の影響

検と、学生がデザインの革新性や生産コストなどのビジネスプランをプレゼンテーションする「静的審査」は五日以降に延期された。

六日からは直線やターン、スラロームなどを組み合わせた公道内の特設コースを実際にレーシングカーが走る「動的審査」が始まり、走行性能や耐久性などを競う。

(土屋祐二)